

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポーシジョンの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2021.1.18-24**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポーシジョンの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

4:1 さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。  
 4:2 そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。  
 4:3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」  
 4:4 イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」  
 4:5 すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、  
 4:6 言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」  
 4:7 イエスは言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。」  
 4:8 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、  
 4:9 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」  
 4:10 イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」  
 4:11 すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。

イエス様が地上に来られた目的を生きるために、与えられた試練、すなわちテストです。石をパンに

変えるということは、神としての力で自分の必要を満たすということですが、イエス様はご自分の必要のためには生きられませんでした。

神殿から下に身を投げるとは、当時信じられていたセンセーショナルな登場の仕方をするということで、名声を意味します。イエス様はご自分の名声を全く求めませんでした。

世の全ての富は文字どおりで、神の力を持ってすればイエス様は地上で全ての富を手に入れることなどたやすいのですが、それをされませんでした。

私たちは以上のものを手に入れたいと願うのですが、イエス様のように自分が生きる目的は何なのかを先ず考える必要があります。また永遠に生きるために必要なものは何なのかも考えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4:12 ヨハネが捕えられたと聞いてイエスは、ガリラヤへ立ちのかれた。

4:13 そしてナザレを去って、カペナウムに来て住まわれた。ゼブルンとナフタリとの境にある、湖のほとりの町である。

4:14 これは、預言者イザヤを通して言われた事が、成就するためであった。すなわち、

4:15 「ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、ヨルダンの向こう岸、異邦人のガリラヤ。

4:16 暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上った。」

4:17 この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

4:18 イエスがガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、ふたりの兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレをご覧になった。彼らは湖で網を打っていた。漁師だったからである。

4:19 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」

4:20 彼らはすぐに網を捨てて従った。

4:21 そこからなお行かれると、イエスは、別のふたりの兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイといっしょに舟の中で網を繕っているのをご覧になり、ふたりをお呼びになった。

4:22 彼らはすぐに舟も父も残してイエスに従った。

4:23 イエスはガリラヤ全土を巡って、会堂で

教え、御国の福音を宣傳え、民の中のあらゆる病氣、あらゆるわずらいを直された。

4:24 イエスのうわさはシリア全体に広まった。それで、人々は、さまざまの病氣と痛みに苦しむ病人、悪霊につかれた人、てんかん持ちや、中風の者などをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らをお直しになった。

4:25 こうしてガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤおよびヨルダンの向こう岸から大ぜいの群衆がイエスにつき従った。

カペナウムなどがあるガリラヤ地方で、イエス様は働きを始められました。そこはエルサレムから遠く、異邦人との接触も多い辺境の地で、イスラエルの中ではさげすまれていたような所です。しかしそこで「民は偉大な光を見、…光が上がった。」のです。

神様はこの世の偏見や差別を打ち砕くことをもなさいます。神様のみわがこの世の自己中心的な価値観ではなく、神様の愛の価値観を表すからです。それが主にふさわしいのです。私たちも主の愛の価値観にふさわしい言動、決断、人間関係、生き方をしましょう。

そのようなガリラヤで漁師をしているということは、決して社会の上流層ではありませんでしたが、そのようなペテロたちに主は声をかけてくださいました。彼らは「「すぐに」イエス様にし従う、用意のある人々だったのです。主のみこころなら「すぐに」従いましょう。

ペテロなどは、この後も漁師をしていますが、最終的には、おびたしい魚が獲れるというイエス様の奇跡によって、献身しました。それまでは仕事をしながらイエス様と交わり、学んでいたと思われまふ。自分はどうのように導かれるかは、明確でなくても、今あるままに主に従いましょう。時が来れば、主は従う者にすばらしい希望をしめして、声をかけてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:1 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来了。  
 5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。  
 5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。  
 5:4 悲しむ者は幸いです。その人は慰められるからです。  
 5:5 柔和な者は幸いです。その人は地を相続するからです。  
 5:6 義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。  
 5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人はあわれみを受けるからです。  
 5:8 心のきよい者は幸いです。その人は神を見るからです。  
 5:9 平和をつくる者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです。  
 5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。  
 5:11 わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。  
 5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天においてあなたがたの報いは大きいだから。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。  
 5:13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。  
 5:14 あなたがたは、世界の光です。山の上に

ある町は隠れる事ができません。

5:15 また、あかりをつけて、それを柀の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。

5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。。

「心の貧しい者」とは、自分の心の内を謙遜に見つめて、主がいなければ自分はやっていけないのだと、主に依り頼む人です。そのような人は「天の御国」すなわち、神の支配によってすばらしいみわざを見ることが出来ます。

「悲しむ者」とは、それが自分のことであれば、主への信仰によって益と変えていただくことができ、また他の人のことであれば、その愛のゆえに主の恵を見て、慰められることができるということです。ただ良いことがありますというのではなく、心も慰めに満たされるのです。

「柔和な者」とは色々な解釈が可能ですが、その原語のニュアンスは、バランス感覚ということ出来ます。主の聖霊によって生きる人は、自分の感情や経験や主張などに支配されないで、穏やかな判断ができるのです。柔和とそのような人格を表しています。そのような人は「地を相続する…」すなわち地上の世でも、人の上に立つようになってゆくのです。

「義に飢え渴いている人」とは、主の義を求める人です。勧善懲悪的なヒロイズムの正義感とは違います。主の義は愛が伴います。主の義は必ず勝利しますから、満ちたりるのです。

「心のきよい者」の「きよい」は、聖霊に使われることばハギオスとは違うカサロスです。これは純粋という意味があります。心や興味関心に不順なものがなく、常に大切なものを求めているような心の状態です。そのような人は一心に神を求

めますから、神を経験し神のことばを聞き神を見る事ができます。

「平和をつくる者」とは、平和が欲しいと求めるだけの者ではありません。平和のないところ平安のない状態に、平和をもたらすのです。それは愛と犠牲と高い理想と希望があってできることです。それは主からいただくのです。

「義のために迫害されている者」は、単に迫害されているというのではなく「義のために」ということです。「喜び…踊る」ほどの喜びが与えられるのは、主のために行動してそれゆえに苦勞しても、負けない人です。

以上の真理、すなわち神の国の価値観に生きて、地の塩・世の光となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:17 わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。

5:18 まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。

5:19 だから、戒めのうち最も小さいもの一つでも、これを破ったり、また破るように人に教えたりする者は、天の御国で、最も小さい者と呼ばれます。しかし、それを守り、また守るように教える者は、天の御国で、偉大な者と呼ばれます。

5:20 まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、はいれません。

5:21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。

5:23 だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、

5:24 供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲

直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。

5:25 あなたを告訴する者とは、あなたが彼といっしょに途中にある間に早く仲良くなりなさい。そうでないと、告訴する者は、あなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡して、あなたはずいに牢に入れられることになります。

5:26 まことに、あなたに告げます。あなたは最後の「コドラント」を支払うまでは、そこから出ては来られません。

救いは信仰によって与えられるもので、律法主義のように行いを強調するのは、むしろ不信仰であると考えるのは、勘違いです。信仰によって救われたなら、良い行いをするように心がけるべきです。

神様は律法を「廃棄」なさったのではなく、「成就」されたのです。つまり、イエス様の生涯において律法を正しく守り罪のない人として生きられました。また人の罪を負って、律法の要求するさばきを完全に実現なさいました。そして、その救いを信じて受け取る者にとって、さばきという律法の要求が満たされたこととなりました。さらには、そのような救われた者は、聖霊によって正しく良い行いができるようになり、その結果律法の要求するところを満たす生き方ができるようになるのです。

このように、イエス様は何重もの意味で、完全に律法を「成就」されたのです。私たちもその確かな信仰を持って、聖霊によって内側から、すなわち動機から変えられる者であるという、正しい自己像を持ちましょう。それが「パリサイ人にまさる義」です。

兄弟姉妹を「能なし」「ばか者」というような、下に見る思いを捨てましょう。関係が悪いなら、

自分の信仰は正しいという観点で自己正当化するのではなく、「祭壇の前」すなわち信仰のルーティンをその「ままにして」でも謙り、「仲直り」しましょう。

訴えられても自分に分があると思わないで、「仲直り」しましょう。どちらに非があるかではなく、平和はつくり出すものだからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:27 『姦淫してはならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:28 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。

5:29 もし、右の目が、あなたをつまづかせるなら、えぐり出して、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに投げ込まれるよりは、よいからです。

5:30 もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切って、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに落ちるよりは、よいからです。

5:31 また『だれでも、妻を離別する者は、妻に離婚状を与えよ。』と言われていました。

5:32 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれであっても、不貞以外の理由で妻を離別する者は、妻に姦淫を犯させるのです。また、だれでも、離別された女と結婚すれば、姦淫を犯すのです。

5:33 さらにまた、昔の人々に、『偽りの誓いを立ててはならない。あなたの誓ったことを主に果たせ。』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。

5:34 しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。すなわち、天をさして誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。

5:35 地をさして誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムをさして誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。

5:36 あなたの頭をさして誓ってもいけません。

あなたは、一本の髪の毛すら、白くも黒くもできないからです。

5:37 だから、あなたがたは、『はい。』は『はい。』、『いいえ。』は『いいえ。』とだけ言いなさい。それ以上のことは悪いことです。

「情欲をいだいて女を見る…」ということで、性的な本能まで否定するような、禁欲的な解釈もあったようです。しかし本来原語では、特定の女性を見続けるということですから、自分の性的欲求を満たすために女性をターゲットにしているというよう状況と言えるでしょう。

何より大切なのは、自分は行動に移していないから罪はないというのではなく、心に思っていることでも、罪は罪であるということです。誰でも心にあることを実行します。チャンスがあったら、ばれなかったらしてしまうということも多いのです。ストレスで…怒りから…悪いと知りつつやってしまったという人も多いのです。心の内はとても重要です。

ですからイエス様はつまづきになるようなもの、すなわち心に悪影響をおよぼすようなものを捨てなさいと命じておられます。これは愛による勧めと思つてよいでしょう。

「離婚」のことも、当時の規定に沿っていれば自由だと考える風潮に、イエス様は問題を投げかけます。規定や社会通念よりも、神様の前にどうであるかが重要です。

「誓い」に関しては、当時の人々は神をさして誓うなら絶対だが、それ以外の誓いは大目に見てもらえると、都合の良いことを考えました。言い逃れをして自分を守れば、それで済むのではありません。主の前にどうであるかです。全能の主は見つておられ、知つておられます。自分の考えを明確にしたなら、あとは主におまかせして、その責任ののりのようなことをするのは止めましょう。

正直であり、そして主を信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:38 『目には目で、歯には歯で。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。  
 5:39 しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。  
 5:40 あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着もやりなさい。  
 5:41 あなたに一ミリオン行けと強いるような者とは、いっしょに二ミリオン行きなさい。  
 5:42 求める者には与え、借りようとする者は断わらないようにしなさい。  
 5:43 『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。  
 5:44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。  
 5:45 それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上げ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。  
 5:46 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。  
 5:47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。  
 5:48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。

山上の垂訓と言われている、この箇所でのイエス様の説教は、非常に高い倫理基準です。そこである人々は、これはあくまでも実現不可能な理想であって、それに向けて努力していけば良いのだと言います。またある人は、どんなに高い基準でも神様の命令であるなら、絶対であって、それに反するなら本当のクリスチャンではないと言います。

そのどちらも極端であり、またこの世の論理に沿った考えであり、肉の力による発想であると言えるでしょう。ここにあるのは神の国の論理であり、聖霊の力による生き方です。

人は神様の十字架によって罪赦されて救われて天国の希望が与えられると、その感謝から神様に喜ばれたいという気持ちが湧いてきます。また神様の役に立ちたいと思うようになるものです。そこで神様に、どのように生きたら良いのですかと、聞きたくくなります。そのような人々に語られたのがこの説教、すなわち山上の垂訓であると言えるでしょう。

このようなクリスチャンは、「左の頬も向けなさい」、「上着もやりなさい」、「敵を愛し」と言われると、やってみたいと思うものです。そして単なる理想であって、実行しなくても良いのだと軽く考えることはないでしょう。絶対の命令であるから、違反したら恐いという思いもないでしょう。

私たちは、自分の心のうちに、このようなきよい思いがあって、主の心と近くありたいと願うものなのです。その思いを自分自身の内に発見しましょう。私たちの国籍は天にあるのですから、その天の価値観があることを発見しましょう。実際にやってみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:1 人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から、報いが受けられません。

6:2 だから、施しをするときには、人にほめられたくて会堂や通りで施しをする偽善者たちのように、自分の前でラッパを吹いてはいけません。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。

6:3 あなたは、施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知られないようにしなさい。

6:4 あなたの施しが隠れているためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

6:5 また、祈るときには、偽善者たちのようであってははいけません。彼らは、人に見られたくて会堂や通りの四つ角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。

6:6 あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋にはいりなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

6:7 また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただくり返してはいけません。彼らはことば数が多ければ聞かれると思っているのです。

6:8 だから、彼らのまねをしてはいけません。あなたがたの父なる神は、あなたがたが願

いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。

6:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。』

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。

6:11 私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。

6:12 私たちの負いめをお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。

6:13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。』〔国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。〕

6:14 もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいませぬ。

6:15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりませぬ。

救われた者の国籍は天にあります。また新しく造られたもので、神様の永遠の価値観で生きる者です。その生き方をする者は、良い報いを神様に期待します。人に求めても期待はずれになります。それで関係が悪くなることさえあります。

施し（与えること、してあげること、献金や援助など）も、祈り（信仰的な行動）も、主は知っていてくださいますので、それで十分です。主がちゃんと報いてくださるのです。人に求めて、がっかりしたり恨んだりすることは止めましょう。

また祈りは、回数やことば数のように、熱心さ

を表すパフォーマンスにならないようにしましょう。祈りに大切なのは主への期待と、忠実さです。またその心から来るところの内容です。

祈りが偏らないように、この主の祈りを模範としつつ、主との生きた交わりによって祈りましょう。

また人の罪を赦しましょう。赦せないことがあるでしょうか。それは明らかな罪だから赦せないのでしょうか、しかし罪だからこそ赦しになるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのだの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

